

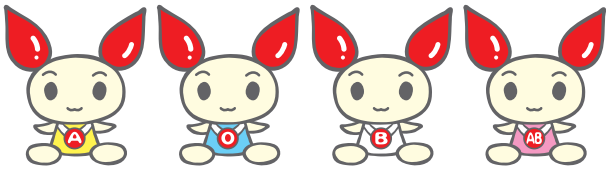
輸血と血液型

輸血は、だれの血液でもよいというわけではありません。輸血を受ける人と同じ血液型の血液を輸血します。A B OとRh血液型（赤血球の型）の2つを合わせるのが基本となります。

たとえば、患者さんがA B型でRhマイナスだとすると、A B OもRhも同じ型の血液を輸血します。この場合、A B型の日本人は10人に1人で、Rhマイナスは200人に1人ですから、同じ血液型の人は2000人に1人という割合になり、すぐに見つかるとは限りません。

以前はこうした時に、輸血用の血液がないという状況が報道され、これに応じて血液の提供を申し出る方のおかげで、無事手術が行われるということがありました。現在は、献血に協力していただける方の登録体制をとって、このような場合に備えています。

血液型は大事だっち。



血液型と遺伝

A B O血液型はメンデルの遺伝の法則に従って遺伝します。A、B、O、A B型の四つの血液型を遺伝子型からみると、A型にはA AとA Oがあり、B型にはB BとB Oがありますが、O型はO O、A B型はA Bです。

A型同士の子からでも、遺伝子がA AとA Aなら、子どもはA型しか生まれませんが、遺伝子型がA OとA Oなら、子どもはA型かO型の子どもが生まれます。A AとA Oの両親からは、遺伝子型A AかA OのA型の子どもが生まれることとなります。これはB型の場合もまったく同じことがいえます。

そのほかの組み合わせに関しては、表を参考にしてください。

両親の子と血液型

父 \ 母	A 型	B 型	AB型	O 型
A 型	AまたはO型	すべて	O型以外	AまたはO型
B 型	すべて	BまたはO型	O型以外	BまたはO型
AB型	O型以外	O型以外	O型以外	AまたはB型
O 型	AまたはO型	BまたはO型	AまたはB型	O型のみ